

学生企画のボランティア活動は、住友商事・東日本再成ユース
チャレンジプログラムから助成を受けています。

ボラスステ新聞

2016年度
第 1 号

二〇一六年
五月一二日
発行

あの日から五年…

東日本大震災名取市追悼式

三月一日、名取市文化会館にて「東日本大震災名取市追悼式」が開催されました。私たちは、受付事務や誘導案内、献花などのお手伝いをしました。

式には多くの人が参列し、改めて復興を願う想いの強さを感じました。追悼式の後、名取市役所で「3.11なとり・関上追悼イベント 2016」に参加しました。たぐさんの絵灯籠には「友情」「絆」などのメッセージや絵が描かれていました。まだ明るい内に点灯されましたが、段々と暗くなるにつれ、ろうそくの明るさがより映えてとても美しかったです。

追悼式は犠牲となった方々を悼むことが目的です。しかし、一日を通して「こうだった惨事

は二度と忘れてはいけな」と、改めて自分達に言い聞かせ、後世にも伝えていく、これも目的の一つではないかと思いましたが、大切なのは、活動を振り返りながら、伝え続ける事だと思います。それを踏まえて、今後の活動に参加していきたいです。

(人間心理学科二年 齊藤千愛)



「ボランティア」というもの

学生ボランティアと支援者が集う
全国研究交流集会に参加して

三月四〜六日に東京で、第四回学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会が行われました。今回は、北海道から九州まで、さらには海外からも学生や支援者が集まり、約六〇〇人で、アイスブレイクやグループワーク、ポスターセッションなどが行われました。

私はこの東京の三日間で、「ボランティア」というものについて少し立ち止まってじっくり考える良い機会に巡り合えたように思います。特に印象に残っているのは、グループワークです。「今のボランティア活動を始めたきっかけ」や「続けていて辛かった事、続ける理由」など、

掲示されたテーマをそれぞれ考え、意見交換をしました。

その中でも、最後の「ボランティアに何を見出し出すのか？」というテーマを難しく感じました。それは、私自身これまで実際に活動をしてきましたが、そこまで考えた事はなかったからです。ただ、他の人の意見を聴いて「自分は実は子どもが好きだと気付いた」「感謝されることがこころも嬉しいことだと実感した」など、ボランティアを通して自分の可能性を発見しているのではないかと感じました。私も、最初は他人のために…と始めていたことが、いつの間にか自分のためにもなっていたと感じることに気付きました。

「ボランティア」には、自発的という意味もあります。自分のために、自分がやりたいことをするのもまた「ボランティア」といえるのではないかと、私は今回の交流集会に参加して感じる事ができました。

(人間心理学科二年

小笠原みなみ)

今年度、最初のボラスステ新聞です！

今号、次号は春休み中の活動の記事となりますが、一つ一つしっかり記事にしたいと思います。また、新年度になったことで一年生も加わり、毎週のミーティングもよりいっそう賑やかになってきました。

今年度も、その元気を活かして活動していけたらいいなと思います！（人間心理学科二年 田中遥）

編集
後記